| 科目ナンバリング | U-LAS01 10003 LJ38 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名<英訳> | 日本史II<br>Japanese History II | 担当者所属職名・氏名 | 人間・環境学研究科 教授 吉江 崇 | | |
| 群 | 人文・社会科学科目群 | 分野(分類) | 歴史・文明(基礎) | 使用言語 | 日本語 |
| 旧群 | A群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 講義（対面授業科目） |
| 開講年度・開講期 | 2026・後期 | 曜時限 | 月2/月3 | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |

**[授業の概要・目的]**

【日本古代の国家と政治－奈良時代の政治・制度－】
日本における古代国家の様相を政治史という側面から把握し、古代日本の特質について理解することを目的とする。今期は、律令国家が制度的に完成した７世紀後葉から８世紀後葉にかけての政治動向を取り上げ、先行学説を紹介するとともに批判的に検証を行う。こうした作業を通じて、国家の様相やその変遷を客観的に捉える視座を養うことを目指す。

**[到達目標]**

日本古代史における正確で幅広い知識を獲得するとともに、これまでの研究の流れを自分の力で整理し、それらを客観的・批判的に把握して、自らの歴史像を組み立てるための技術を習得する。

**[授業計画と内容]**

７世紀後葉に成立した日本の律令国家は、古墳時代以来の伝統を、唐から導入した先進的な律令制度を基軸に合理化し、固定化することを通じて形づくられた国家だった。今期は、そうした日本の特質を把握することを目的に、律令国家の支配が最も充実したと考えられる奈良時代について、その政治動向を整理する。まずは、支配の拠点となる宮都の様相を概観し、空間的な視点から律令国家の成立について考える。次いで、律令国家の中核を担った藤原氏の特質を明らかにし、その上で、貴族や仏教との関係から、奈良時代の天皇の位置を考察する。最後に、奈良時代後半に起きた恵美押勝の乱と、それにつづく道鏡の政治に関して分析し、奈良時代から平安時代への政治の展開を展望する。

第１回　イントロダクション－唐の律令と日本の律令－
第２回　古代宮都の変遷（１）
第３回　古代宮都の変遷（２）
第４回　藤原氏の登場（１）
第５回　藤原氏の登場（２）
第６回　貴族政権論とは（１）
第７回　貴族政権論とは（２）
第８回　大仏の造立と聖武天皇（１）
第９回　大仏の造立と聖武天皇（２）
第１０回　恵美押勝の乱をめぐって（１）
第１１回　恵美押勝の乱をめぐって（２）
第１２回　法王道鏡の権威と権力（１）
第１３回　法王道鏡の権威と権力（２）
第１４回　総　括
《期末試験》
第１５回　フィードバック

日本史II(2)へ続く↓↓↓

**日本史II(2)**

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

期末試験（筆記）にて成績評価する。

**[教科書]**

使用しない
授業中にプリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

シラバスなどから授業の進行を確認し、各回の授業内容を想定しながら予習をすること。

**[その他（オフィスアワー等）]**

授業は講義形式で行う。

**[主要授業科目（学部・学科名）]**

総合人間学部